

新年のごあいさつ

坂東市長

吉原 英一



新年明けましておめでとうございます。
います。

市民のみなさんには、清々しい新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。また、旧年中は、市政運営に深いご理解と温かいご協力を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、坂東市誕生10周年という節目の年にあたり、1年を通して各種記念事業を盛大に開催することができました。また、認定こども園ひまわりの開園や、学力・学習状況調査で全国トップレベルの成績を誇る秋田県能代市との教育交流、国道354号岩井バイパスの全線開通など、各分野で坂東市

のこれからを支える新しい事業展開を図ってまいりました。

一方で、記憶に新しい関東・東北豪雨災害は、私たちの愛する郷土に大きな爪痕を残し、自然の驚異と人間の無力さを痛感した年でもありました。この経験を教訓に、一切の甘えを排除した防災計画の早期見直しと、災害発生時に備えた迅速かつ適切な対応体制の確立に向け、整備を進めていくことが災害に強いまちづくりへの一歩だと考えております。

この災害を受け、いざという時に大きな力を発揮するのは、やはり人と人との絆であると感じました。坂東市のかかげる「夢と希望に満ちた活力ある明るいまちづくり」も、みなさんのお力添えなくしては成し遂げられません。本年も、市民のみなさんと手を取り合い、笑顔あふれる生活ができるよう活力あるまちづくりに励んでまいります。

本年は、いよいよ新庁舎が完成いたします。これまでの分庁方式により、市民のみなさんには目的別に庁舎間を移動しなければならぬ不便をおかけしておりました。新庁舎では、本庁方式を導入し、

住民サービスの向上と事務の効率化を図るとともに、猿島庁舎には総合窓口を設け、これまで行ってきた各種申請や証明書の発行、相談業務などを行い、猿島地域のみなさんのご負担を軽減するための調整を進めております。また、新庁舎が災害発生時に復旧復興対策の拠点として十分に機能できるよう、優れた耐震性と防火性、安全性を備えた庁舎の建設を進めております。さらには、市民のみなさんが自由に利用できるスペースを整備しており、人が行き交い、坂東を愛する皆が、同じ方向を向いて汗を流せる協働のまちづくりを実現するため、積極的な意見交換をしていきたいと思っております。

中心市街地では、大塚酒造跡地に観光交流センター「秀緑」がグラウンドオーブンいたします。秀緑を核として、商店街と連携したまちの活性化と産業振興を目指すほか、既に運営を開始しているガラス工房においても、全国に誇れる坂東ブランドの創出に向け、活動を展開してまいります。

また、首都圏中央連絡自動車道の整備に合わせ、工業団地内のアークエス道路の整備も着々と進めております。さらに、杓掛地区の土地区画整理事業により、工業団地に勤務する人たちが住みやすい市街

地の整備に取り組み、工業団地との関連性を高めていきたいと考えております。坂東市の豊かな自然と、首都圏や国際的物流拠点への利便性を活かした、新たな産業拠点として発展していけるよう、一体的な整備を進めてまいります。

そして近年、急速に進展する少子高齢化社会の中で、誰もが自分らしく、生きがいのある生活を送ることができるよう、大人と子どもが共に成長できる教育の充実と、どんな困難をも自ら乗り越え生き抜く力を持った子どもへの育成、地域を基盤とした介護予防への総合的な事業を実施してまいります。住み慣れた地域で、家族や友人との日常を大切にしてあげたい。そんな思いから、高齢者のみなさんには、これまで培われた豊かな経験と確かな知識を大いに発揮していただき、次世代を担う子どもたちが受け継いでいけるような活力のある事業に取り組んでまいります。

坂東市誕生10周年を経て、これからの10年が後世への確かな礎となるよう、歩みを進めていきたいと考えております。

結びに、平成28年がみなさんにとって明るく希望に満ちた年となりますことをご祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。